

(別添2)

No.	
策定年月	令和4年4月
見直し年月	—

麦・大豆産地生産性向上計画
池田町・神戸町産地
(作成主体:農事組合法人 白鳥ファーム)

1. 麦・大豆の生産性向上・生産強化に向けた方針

池田町・神戸町は、全経営耕地面積(R3年 1,838ha)に対して田の占める割合が約86%(R3 1,575ha)の地域であり、そのうち水稲の作付割合が約43%(R3年 671ha)を占めている。

近年、主食用米の国内需要が減少する中で、将来を見据え、飼料用米等の生産拡大、加工用野菜(タマネギ、キャベツ)等の導入等と併せて、麦・大豆の生産を拡大する必要がある。

麦・大豆の生産にあたっては、担い手として、更なる面積集積及び団地化を図り、効率的で安定した生産を行うことで生産性の高い麦・大豆産地づくりを推進していく。

また、実需者ニーズに応えるための耕耘同時畝立て播種等低コスト生産等の取組を行い、各町と協力し、住民に対して地場産活用を呼びかけ、需要の創出・拡大にも積極的に取り組む。

現在、池田町・神戸町においては、水田収益力強化ビジョンにより水田活用の推進に取り組んでいるが、本計画に沿って、麦・大豆生産性向上・生産拡大に係る取組をより具体化するとともに関係者の連携を強化し、農業の更なる活性化を図っていく。

2. 麦・大豆生産の現状と課題

(1) 需要に応じた生産の現状と課題

- ・麦については、本地域で生産している小麦イワイノダイチは全量(R3年、152トン)が全農岐阜に卸されているが、実需者から求められるたんぱくや容積重など品質を満たしていない年もあり、生産量及び品質の安定化を求められている。
- ・大豆フクユタカ(R2年、59トン)については、全量が全農岐阜に卸されているが、近年、作柄の不安定さにより安定供給が達成できておらず、供給を安定させる必要がある。

(2) 生産における現状と課題

- ・作付面積は麦・大豆ともに増加傾向で推移しているが、大豆の単収は長期的に低い状況となっている。
- ・大豆の単収低下の原因として、悪天候による作業の遅れ等が考えられ、収量を向上・安定化させるためには、排水対策の実施によるほ場の排水性の改善が課題となっている。また、麦については、要望される品質確保が課題となっている。
- ・さらに、近年は、農地集約が進んで作業面積が拡大したことによる適期作業の逸失等も単収低下の要因と考えられる。このため、スマート農業の導入や作付ほ場の団地化等による作業の効率化が必要だが、団地化率は上昇しておらず、改善が課題となっている。

(3)実績(※丸めにより合計値が一致しない場合がある。)

① 生産量

作物名	品種名	作付面積の推移(ha)			単収の推移(kg/10a)			生産量(t)		
		令和元年産	令和2年産	令和3年産(現状)	令和元年産	令和2年産	令和3年産(現状)	令和元年産	令和2年産	令和3年産(現状)
小麦	イワイノダイチ	67.2	67	73.5	291	163	207	196	109	152
作物計※		67.2	67	73.5	291	163	207	196	109	152

作物名	品種名	作付面積の推移(ha)			単収の推移(kg/10a)			生産量(t)		
		令和元年	令和2年産	令和3年産	令和元年	令和2年産	令和3年産	令和元年	令和2年産	令和3年産
大豆	フクユタカ	68.6	67.5	73.8	64	56	80	44	38	59
作物計		68.6	67.5	73.8	64	56	80	44	38	59

※ 田畑計の数値を記載している場合は、括弧内に田の面積を記載すること。

※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。作付していない作物がある場合は空欄で良い。

※ 計画策定時に数値が把握できる直近3年の実績を記載する。麦と大豆で年産が異なっても良い。

※ 年産は必要に応じて適宜書き換えて使用すること。

※ 麦は必ず品種毎に整理すること。(大豆は品種ごとの記載が困難な場合は、一括の記載が可能)

② 団地化

作物名	品種名	令和元年産		令和2年産		令和3年産(現状)		備考
		団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	
小麦	イワイノダイチ	-	-	-	-	0.0	0.0%	
作物計		-	-	-	-	0.0	0.0%	

作物名	品種名	令和元年産		令和2年産		令和3年産(現状)		備考
		団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	
大豆	フクユタカ		-		-	0.0	0.0%	
作物計		-	-	-	-	0.0	0.0%	

※ 原則田の数値を記載するが、畑を含んでいる場合は、田の数値を括弧書きで記載すること。

※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。作付していない作物がある場合は空欄で良い。

※ 団地化率は、団地化面積が当該品目の作付面積に占める割合を指す。現状数値以外は把握できる範囲の記載で良い。

※ 品種毎の記載が困難な場合は、麦全体及び大豆全体の数値のみの記載で良い。

③ 団地化率の計算に用いる団地の基準・考え方

岐阜県においては、「団地」は4ha以上の、同一作物が作付されており、一連の農作業に支障が生じない2筆以上の隣接する農地としており、当該地域においても同様とする。

※ 都道府県の団地基準面積値を使用している場合は、その旨記載すること。

※ 都道府県の団地基準面積値と異なる場合は、必ず記載すること。

3. 課題解決に向けた取組方針・計画

(1)取組方針

① 需要に応じた生産と販売の実現

小麦については、播種や赤かび病防除や収穫等が遅れないよう、適期作業を遵守し、需要者からの要望に応える高品質な麦を安定的に生産する。大豆については、団地化を進めることにより生産性を向上させるとともに、適期播種や適期収穫を図り、高品質な大豆の生産量を増やす。

② 団地化の推進

人・農地プランや農地中間管理事業による農地の集積の推進と連携しつつ、認定農業者同士で農地の入れ替えを中心に麦・大豆の団地化に向けた話し合いを実施し、土壌・排水条件・作業の効率化等に配慮した団地化に向けた計画を産地において作成する。また、団地化を推進することで圃場間の移動時間を削減し、作業の効率化を図る。

③小麦の面積拡大

土壌改良による小麦の収益性の向上や団地化の推進により、小麦の面積拡大を図る。

④ 大豆の面積拡大

土壌改良による大豆の収益性向上や団地化の推進、加えて性能の良いコンバインを導入することにより、大豆の面積拡大を図る。

※ ①需要に応じた生産と販売の実現、②団地化の推進については必ず記載する。③以降は産地の実態に即して記載する。

(2)計画(※丸めにより合計値が一致しない場合がある。)

① 生産量

作物名	品種名	令和3年産(現状)			令和10年産(目標)			備考
		面積(ha)	単収(kg/10a)	生産量(t)	面積(ha)	単収(kg/10a)	生産量(t)	
小麦	イワイノダイチ	73.5	207	152.145	80.9	208	168.272	
				0			0	
作物計		73.5	207	152.145	80.9	208	168.272	

作物名	品種名	令和2年産(現状)			令和9年産(目標)			備考
		面積(ha)	単収(kg/10a)	生産量(t)	面積(ha)	単収(kg/10a)	生産量(t)	
大豆	フクユタカ	67.5	56	37.8	81.5	58	47.27	
作物計		67.5	56	37.8	81.5	58	47.27	

※ 田畑計の数値を記載している場合は、括弧内に田の面積を記載すること。

※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。

※ 麦は必ず品種毎に整理すること。(大豆は品種ごとの記載が困難な場合は、一括の記載が可能)

※ 現状値は、計画策定時に数値が把握できる直近の年産を記載する。麦と大豆で年産が異なっても問題ない。

※ 目標年は計画策定年から5年後に生産(麦においては播種)する年産とする。麦と大豆で年産が異なっても問題ない。

※ 災害等により、現状値として直近年を用いることが適当でない場合は、現状値を7中5とすることが出来る。その場合備考欄に明記すること。

② 団地化

作物名	品種名	令和3年産(現状)		令和10年産(目標)		備考
		団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	
小麦	イワイノダイチ	0.0	0.0%	4.0	4.9%	
作物計		0.0	0.0%	4.0	4.9%	

作物名	品種名	令和3年産(現状)		令和9年産(目標)		備考
		団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	
大豆	フクユタカ	0.0	0.0%	4.0	4.9%	
作物計		0.0	0.0%	4.0	4.9%	

※ 原則田の数値を記載するが、畑を含んでいる場合は、田の数値を括弧書きで記載すること。

※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。

※ 現状値については、原則、大豆は令和2年または3年産、麦は令和3年産または4年産の数値を記載すること。

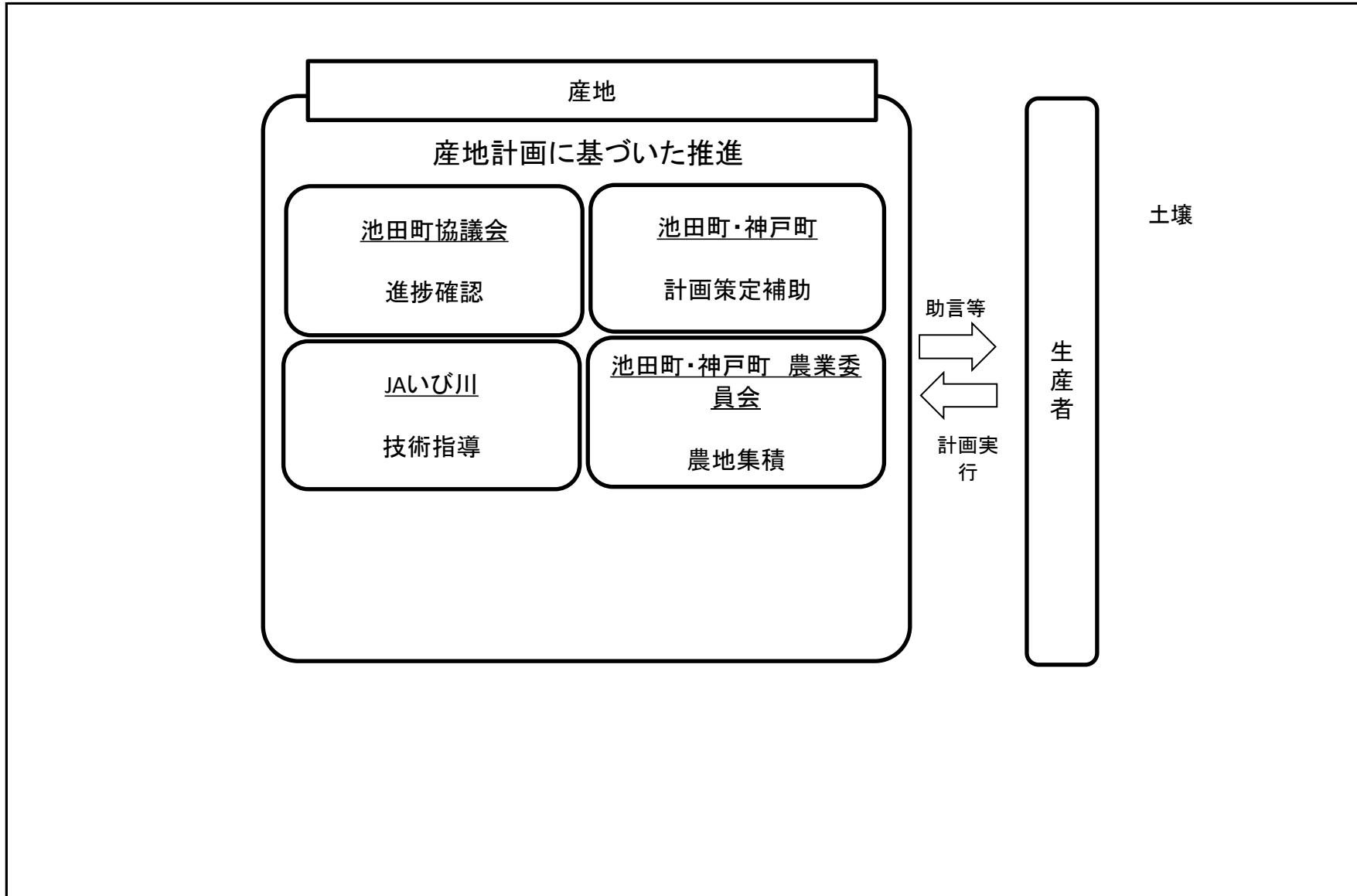
※ 目標年は計画策定年から5年後に生産(麦においては播種)する年産とする。麦と大豆で年産が異なっても問題ない。

※ 麦は必ず品種毎に整理すること。(大豆は品種ごとの記載が困難な場合は、一括の記載が可能)

※ 団地化率は、団地化面積が当該品目(作物)の作付面積に占める割合を指す。

※ 品種毎の記載が困難な場合は、麦全体及び大豆全体の数値のみの記載で良い。

4. 推進体制及び役割



5. 他計画・プラン等との連携

	連携する計画・プラン等名称	作成年	備考
1	農業再生協議会水田収益力強化ビジョン	R3	
2	水田リノベーション産地・需要協働プラン	R3	
3	池田町 神戸町 人・農地プラン	R3	
具体的連携内容			
<p>本計画の実施に当たっては、県の「農業再生協議会水田収益力強化ビジョン」に基づく作付け転換の推進との整合を図るとともに、毎年作成する地域の農業再生協議会水田収益力強化ビジョンとの整合を図る。 特に、産地で作成する人・農地プランとの連携を図り、集積した農地を効果的に活用できるよう団地化を推進する。</p>			

6. 活用予定の事業

関連	事業名	備考
○	水田麦・大豆生産性向上事業	R4年度に営農技術導入・機械整備を図り、麦・大豆の生産性向上を図る。

※別紙第6の事業に該当する場合は、「○」を記載すること。その他の事業を活用する場合は「-」。

※備考欄には、活用する時期や具体的な取組内容を記載すること。